中 臣 遺 跡　発掘調査

調 査 地	京都市山科区椥辻番所ヶ口町、勧修寺東栗栖野町
調 査 期 間	令和元年（ 2019 ）7 月 29 日 ～ 9 月 6 日（ 予定 ）
調 査 面 積	175 ㎡
調 査 原 因	宅地造成
計 画 機 関	根木建設工業株式会社
調 査 機 関	有限会社 京都平安文化財

1. はじめに

中臣遺跡は、京都盆地の東部に位置する半独立的な山科の小盆地の中央西半部に所在しています。遺跡は東に山科川、西に旧安祥寺川に挟まれた、複合的な扇状地の上面に広がる遺跡で、縄文時代～室町時代が重なる複合遺跡です。遺跡の推定範囲内には中臣という地名も残り、古墳時代以来の有力氏族である中臣氏との関わりが深い遺跡と考えられています。遺跡の北部となる盆地北辺部には中臣鎌足（ 後に藤原性となる ）の屋敷や仕えた天智天皇の御陵など、中臣氏とゆかりの遺跡が点在しています。

この度、この当地で計画された宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査を京都市文化財保護課の指導と事業主の協力を得て実施いたしました。

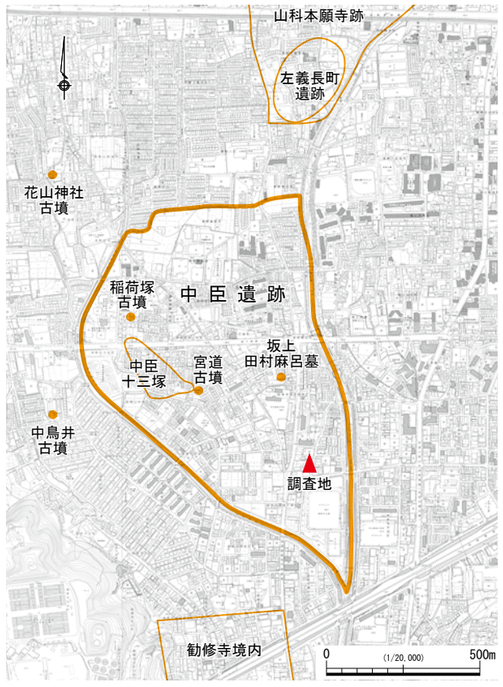

図 1 中臣遺跡における調査地位置図（1:20,000）

2. 調査成果

今回の調査で確認した遺構は中臣遺跡の最盛期である６～７世紀頃の竪穴住居址（ 建物４ ）、７～８世紀初め頃の掘立柱建物（ 建物２・３ ）が確認されました。遺構からは時代を示す遺物として土師器甕や須恵器甕等の小片が少量、出土しています。

この他、江戸時代頃に埋め立て始めた山科川の河岸段丘の段丘崖を検出しています。また、調査地中央に古墳時代末頃の溝状遺構も確認できました。これは北側の勧修寺第二市営住宅団地の建設に伴う調査で多く確認された、古墳の周りを巡る溝の可能性もありますが、一部の検出に留まり断定は控えておきます。

今回の調査は小規模でしたが北側の調査で確認されていた遺跡の様相が、南方にまで同様に広がっていたことが明らかになりました。

写真 1 調査区全景（ 北から ）

図 2 北側の調査地（ 勧修寺第二市営住宅団地 ）と今回の調査区

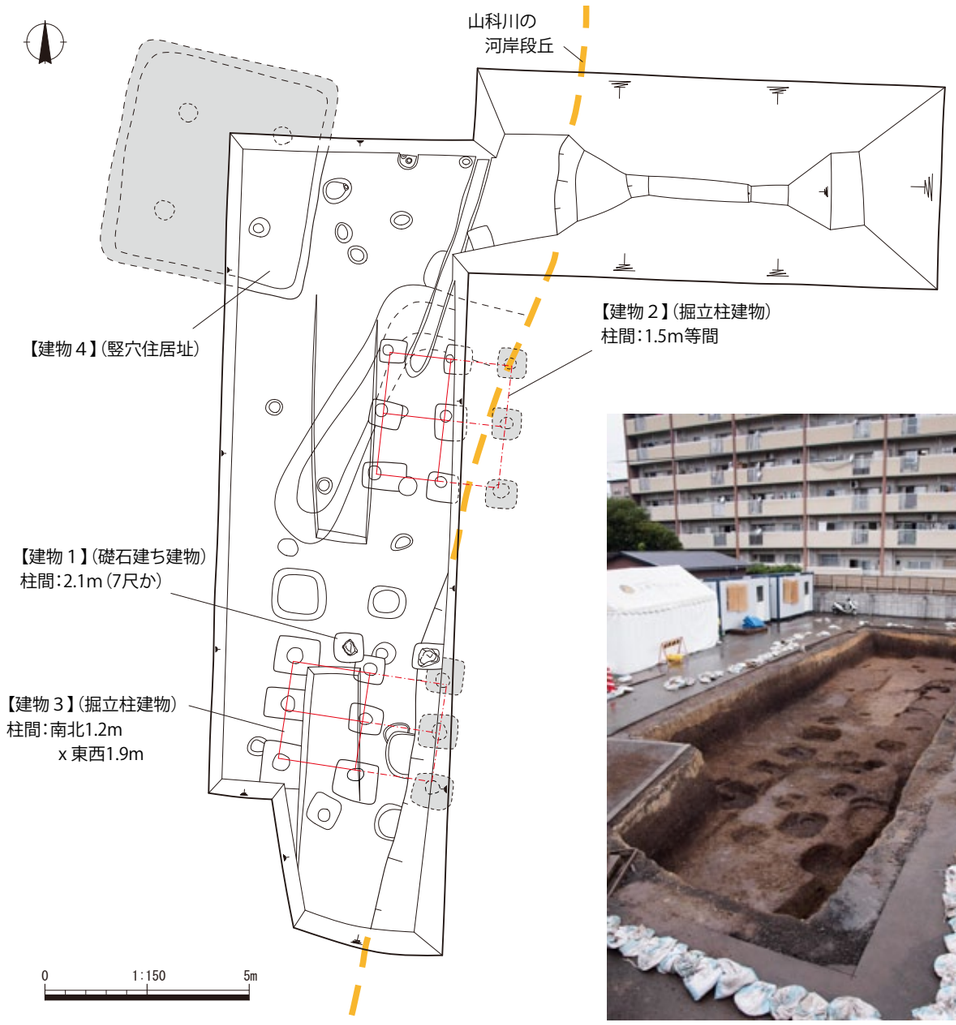

図 3 調査区平面図（ 1:150 ）

写真 2 調査区全景（ 南東から ）